

あらゆるビジネスシーンで活躍の会員の皆様をご紹介します。

ビジネス×インタビュー

岐阜婦人子供服工業組合

専務理事

岩田幹夫さん



岐阜アパレルのブランド化

岐阜はアパレルの産地として全国に名を馳せています。しかし、昨今は少し元気がなくなってきたと言われることが多く、当組合員の数もピーク時の半分ほどになっています。

そのため、組合では、福利厚生や組合員同士のつながりを深める活動が主だったものでしたが、現在では産地及び組合員の活性化につながるよう販売促進に関する事業が中心です。

例えば、パターンセミナー。講師は、東京の文化服装学院の先生にお願いしています。少人数指導のため、一人一人のレベルにあった細かなところまで習えるので好評です。その他にも流行のデザインを学ぶことができるセミナーを企画し、いち早く時代の流れにあった服づくりを学びます。

平成8年、25の組合員が集まり、県と市の協力を得て岐阜ブランド「オリベスク」を立ち上げました。

中国市場へ岐阜ブランドの販路を求める

婦人服の製造卸をしている当組合員は、ブラウス、スカート、ジャケットというひとつのジャンルのみを作っている場合が多いため、消費者に対して着こなし方・組み合わせ方が伝わりにくいと言われます。

そこで、売上げに結びつけられるように、いくつかの取組みをしました。まず、スカート・ブラウス・ジャケットなどを集め、様々なコーディネートをしました。それをアピタ、イオンなど大型店のフロアで販売できるようにしました。販売コーナーには百貨店のよう

国内から海外へ

平成16年からは、海外に進出し、香港、台湾、大連、そして岐阜市と姉妹都市の杭州市での展示会に参加しています。

ただきました。中国の高度経済成長と富裕層の増加も追い風となって、これからは十分勝算があると考えます。

生き残るために

私は、服の一番の付加価値は着心地だと考えています。岐阜の製品は、海外製品はもとより日本製の中でも、かなり良いものだと思っています。最近、新宿の京王百貨店にて販売会を実施しました。特別に岐阜製のコーナーを設けたところ、多くの方が購入され、評判が良かったようです。岐阜製品の着心地のよさを理解してもらえたからだと思えます。

現在は、インターネットなど販売チャネルの多角化により、アパレルの流通に変化が生じています。問屋から小売業への変化には、ノウハウや人員、投資など多くの壁があります。組合員は、生き残りをかけるために真剣に取り組んでいるので、当組合は、商売につながる施策を展開し全力で支援します。



趣味
映画、読書、カメラ

健康
岐阜産の野菜を食べています。新鮮で、地元のエネルギーが詰まっているから元気になります。毎日の散歩はゴミ袋を持っていき、街の清掃も行います。

今月の会社データ

岐阜婦人子供服工業組合

住 所 岐阜市金町8-28
電 話 058-264-6688
業 種 婦人子供服製造卸商社の販売促進
設 立 昭和46年